

地域づくりの先に
 昨年、上米島地区と合同で実施した研修会の中で講師から「私の地域では、備蓄食糧がなくても、米や野菜などの食べ物は何とかできる。米農家も多いしみんなで持ち寄ればやっていける」という話があったとのこと。飯南町は米農家が多いため、安部さんもそのとおりだと思わ

地域に広がる「防災士」

防災士は、資格取得の過程で、災害に関する気象等の知識や避難所運営などに関する知識を習得。各地区で防災アドバイザーとしての活躍が期待されています。町内では、平成30年度までに31名の防災士が誕生しています。各地区の防災士に話を聞くだけでも、日々の備えに一步近づけるとおもいます。

飯南町防災士名簿

地区	氏名(敬称略)
赤名	東 良太、安部 農、三島 啓太 山根 浩明、和田 泰裕 前島 良司(赤名郵便局)
谷	朽木 博文、永田 博 永井 正智(谷郵便局)
来島	吾郷 由美子、烏田 範昭、高田 浩 藤原 一也、藤原 賢一、星野 崇 和久利 久、安部 亮(来島郵便局)
頓原	景山 瑛太、景山 道夫、景山 雄斗 木村 綾子、塩田 寛幸、信藤 晃 那須 照男、信高 正美、深石 賢一 森本 哲也、谷口 忠(頓原郵便局)
志々	原田 明紀、三嶋 忠 若林 秀徳(志々郵便局)

防災訓練を開催

「土砂災害防止月間」に合わせて大雨・洪水・土砂災害を想定した防災訓練を実施します。

日時 6月2日(日)9時~13時

※当日に大雨・洪水当の警報が発表された場合は中止します。

会場 飯南町全域

(役場本庁舎、各支所、指定緊急避難場所69カ所、指定緊急避難所35カ所等)

内容 情報伝達、避難所への避難、避難所の開設等

問合せ 総務課 電話76・2211



防災研修会の様子

「でも、これは備蓄をしなくて良いということではなく、『その地域にあった備えがある』ということ。地域づくりの中に防災を取り入れることで、防災の取り組みは進化するのではないか」と安部さん。

小田真木地区では、これらを踏まえて今年度、実際に防災組織を立ち上げ活動している町内外の団体から情報を集め、防災組織の在り方や防災マップ作成などの具体的な手法を学びながら、地域住民で話し合う機会を設ける予定ということ。また、自主防災組織の基盤となる自治振興協議会の組織構

成を見直し、組織のスリム化と活動団体との連携を強化、いざという時の役割分担(例えば、食料や機材は管農グループ、給食・給水は女性グループの皆さん)を決めるなど、日頃のネットワークを活かした体制づくりを進めていくとのこと。

安部さんは「そういう想いを持った人たちが集まり、語り合う。そして行動に移す。そんな機運が小田真木地区で高まってきたように思います。人の顔、暮らが見える楽しい地域の実現、地域のつながりを大切に。その日常のつながりがいざという時にいきると確信しています」と話していました。

地域づくり×防災



小田真木自治振興協議会会長の安部和昭さん

町内の平成18年災害の様子

ひとたび災害が起ると町は
 飯南町では、町防災計画で自主防災組織を「各自治会・組」と位置付けています。この定義によると、町内のほぼ全域、ほぼ全町民を対象として自主防災組織が組織されているということになります。しかし、災害時に自主防災組織として機能できるかという点、必ずしもそうとは言えないかもしれません。

では、なぜ災害時に自主防災組織が必要なのでしょう。大規模な災害が広域で起きると、役場では情報収集や避難所開設、災害復旧、罹災証明書の発行など、最低限の通常の窓口業務や日常的な業務を行いつつ、災害対応を行うことになり。そうすると、近年の災害でみられたように、避難所の運

見えてきた課題
 平成28年の災害をきっかけに、自主防災組織の立ち上げに向け、動き始めている地域があります。「個々の日頃の備えと『自主防災組織』、自助・共助の重要性を感じた」と話すのは、小田真木自治振興協議会会長の安部和昭さんです。

現在、小田真木地区では、災害への備えを地域づくりの側面から考えるということを進めて

平成28年。4月の熊本地震に続き、鳥取中部地震、中国地方や北海道でも豪雨災害が相次ぎました。50年に一度、100年に一度と言われる大雨が毎年のように降るたび、テレビや新聞などで報道されてきました。

今月は、「自主防災組織」「共助・自助」について特集します。